



佐々木 路康さん(40)
由美さん(40)

＝前沢区白山字雨田＝

●どんなときも一緒に素敵な夫婦を紹介
雨の日も晴れの日も

ぱつと目を引く明るいピンク色。おそろいのジャンパーを羽織る佐々木夫妻は、前沢区の平成26年度42歳厄年連「ヨンパチ！會」の役員を夫婦で務めています。
2人は中学校時代の同級生。路康さんは仕事が終わってから山車の制作に当たるため、帰宅は深夜になることも。由美さんは演出の仕事をこなしながら、そんな夫を支えます。「祭りを成功させるための作

業は大変ですが、家族の理解があるからこそできることですね」と、路康さんは妻の支えに感謝しています。
11月4日に開催された第31回スポンニチ奥州前沢マラソンに、ヨンパチ！會の宣伝を兼ねて出場した路康さん。由美さんはスタート前に「途中で歩かないようにね」と優しい笑顔で言葉を掛けました。
結婚して15年。「もうそんなにたつのか」と、あらためて一緒に過ごした年数に感じる路康さんに、由美さんは「いい歳になってきたので頑張つて」と大忙しの夫をいたわります。
夫婦円満の秘訣はお互いがマイペースでいられること。「2人とも丑年生まれなので、これからのんびりといきましょう」。一緒にいるのが当たり前というこれ以上ない幸せをかみしめながら、佐々木夫妻はこれからも一緒に、ゆつくりと歩き続けます。



Interview
菊池 祐人さん
(江刺区・木細工小学校6年)

夢トーク 38 将来の夢は「保育士」

—学校の役割は？
児童会長です。木細工小学校は全校児童が5人。1級上の先輩がいなかったため、児童会長は昨年から続けて2年目です。
—普段はどんなことをして遊んでいますか？
最近をよく休み時間にバレーボールをしています。先生も一緒になって遊んでくれて楽しいです。中学校に入学したらバレー部に入りたいな。
—小学校の思い出は？
ことしの区内水泳記録会で50m平泳ぎに出場して、1位を取ったことです。100mは2位だったけれど、大会新記録を出せたのでうれしかったです。
—将来の夢を教えてください。
保育士です。僕は6人きょうだいの2番目で、一番下の妹は1歳。弟や妹たちの面倒を見ているうちに、保育士の仕事っていいなと思うようになりました。
—夢を叶えるために、がんばっていることはありますか？
家で妹たちが喜ぶような遊びをしてあげています。子どもたちが喜ぶことを分かってあげられる、優しい保育士になりたいです。



中高生の部活動や委員会活動を紹介 2

青春讃歌

水沢第一高等学校
太鼓同好会

- ◎部員数 7人
- ◎顧問 菊池一俊先生
- ◎部長 松本童夢君
- ◎創部 平成18年

太鼓の力で地域を盛り上げる

力強い音を紡ぎだす14本のバチ。水沢第一高等学校太鼓同好会は、現在7人で活動しています。同部は平成18年、太鼓よさこい同好会として活動を開始。現在は活動を太鼓に絞り、卒業生やPTAなどで構成する「鼓舞士会」のメンバーと共に、町内会や老人ホームを訪問して演奏を披露しています。「聞いてくれる人の心に響く演奏を目指しています。終わった後に『良かったよ』と声を掛けてもらえると、やっぱりうれしいですね」と、部長の松本君(調理科2年)は演奏中の真剣な表情とうって変わって穏やかな笑顔。10月に北上市で開催された、県内の私立高校が集って演奏や踊りなどを披露する私学フェスティバルは「現メンバーで最高の演奏ができた」と振り返ります。それでも満足はせず「声の出方はまだまだ。これから強化していきたいです」と、今後の課題も明かしました。「“地域のために”を目標に、太鼓で地元を盛り上げられたら」と、顧問の菊池先生は自らも鼓舞士会のメンバーとして、生徒たちの演奏に力を添えます。みんなの音を一つに――。同部はこれからも、息の合った演奏で地域に元気を与えてくれるでしょう。



息の合った迫力ある演奏



秋気身にしみる頃となりましたが、皆さんいかがお過ごしですか。

先月30日、姉妹都市である北海道長沼町を訪問しました。今年姉妹都市締結40年の節目にあたり、現地で盛大に記念式典・祝賀会が開催されました。長沼町とは児童生徒との相互交流を盛んに行っておりますが、北海道日本ハムファイターズの大谷選手が姉妹小学校在学中に描いた絵が、当時交流した長沼の小学校に残っていると聞き、驚きました。さまざまなご縁を大切にしながら、今後も長沼町との交流を続けていきたいと思えます。
また、長沼と言えば、産物であるジャガイモ、ジンギスカンなどが本市でも好評ですが、先月はそれらを販売した水沢産業まつりをはじめ、各

区でそれぞれ特色ある産業まつりが開催されました。さらに、奥州三大マラソンも開催され、秋の奥州が大いに盛り上がりを見せたところで、ことし、親子を中心にした形に変えて開催した胆沢区の焼石マラソンのように、新しい風を入れながら、今後も各種イベントを続けていきます。

国際ニアコライダー(ILLC)の話題です。先月、ILLC計画を推進する研究者組織であるリニアコライダー・コラボレーションのメンバーが、建設候補地である北上山地の現地視察に訪れました。4月にスイスのCERNを訪問した際にお会いしたリニアエバンスさんらとの半年ぶりの再会に、つながりを確認したところで、また、皆さんから高い評価をいただいたことは、今後も誘致活動を続けていく上で、大きな力になるものです。人とのつながりは財産であり、これまで培ってきたつながりを大切にしながら、誘致実現に向け、さらに努力をしていきます。

奥州市長 小沢昌記